

看護師採用案内

宮城県立精神医療センター 
宮城県立がんセンター 



宮城県立精神医療センター

〒981-1231
宮城県名取市手倉田字山無番地
TEL.022-384-2236(代)



ロゴマークは3つの行動規範「Smile Support Sprints」と患者さんを病院・家族・地域で包み込むというイメージを重ね合わせたものです。MPCはMiyagi Psychiatric Centerを表しています。



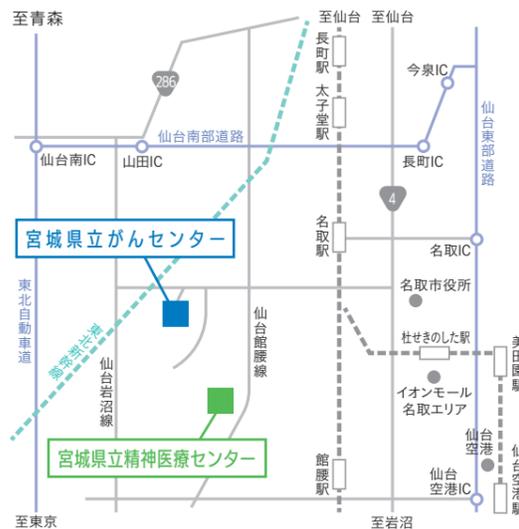
宮城県立がんセンター

〒981-1293
宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1
TEL.022-384-3151(代)



ロゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表しています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

アクセス



宮城県立精神医療センター

- JR** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
- バス** 名取駅西口から「愛島線」(なとりん号)を利用(所要時間 約7分)
- 自家用車** 仙台南インターから県道仙台・岩沼線を利用(所要時間 約20分)

宮城県立がんセンター

- JR** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
- バス** 名取駅西口から「県立がんセンター線」、「北目上原線」(なとりん号)を利用(所要時間 約7分)
- 自家用車** 仙台南インターから県道仙台・岩沼線を利用(所要時間 約15分)

地方独立行政法人

宮城県立病院機構

宮城県立精神医療センター 宮城県立がんセンター

看護師採用に
関する
お問い合わせ先

地方独立行政法人
宮城県立病院機構本部事務局
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1



TEL.022-796-1042

あなたが、
いてくれてよかった。
ナラティブを紡ぐ



あなたが、
いてくれてよかった。
ナラティブを紡ぐ

私の看護を届けたい。

みえない声を聴き、一人ひとりに寄り添う看護、

共に創りあげるナラティブがある。

良質な
医療の
提供

温かさを
感じる
看護

看護師
としての豊かな
成長



ともに支え合い
成長する看護師を
めざして

宮城県立病院機構は、宮城県立精神医療センターと宮城県立がんセンターの2つの病院を運営している地方独立行政法人です。

当機構、すなわち宮城県立病院が果たすべきミッションは、民間の医療機関では対応が困難な、高度で専門的な医療を県民の皆様に提供することにあります。

そのため、各病院の現場では職員一人ひとりが、医療や看護に対する高い倫理観や熱い志をもって、日々の業務に励んでいます。

そのようなスタッフを支え、育成するため、当機構では専門性の高い知識や技術の習得に向けた、きめの細かい教育プログラムや働き方の改善に向けた各種制度の充実などの環境づくりをとおして、看護師をはじめとする全てのスタッフが、やりがいをもって職務に専念し「精神科」や「がん」のプロフェッショナルとして、ともに支えあい成長できるよう全力で取り組んでいます。

当機構へ入職をお考えの皆様、患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、その人の想いにしっかりと寄り添うことを大切に、高度で専門的な医療や看護をともに提供していきましょう。

皆様の御応募、心よりお待ちしております。

地方独立行政法人宮城県立病院機構理事長 張替 秀郎

宮城県における精神医療の基幹病院として、利用者の生き方に寄り添う医療



Miyagi Psychiatric Center

宮城県立精神医療センター

基本理念 心のかような良質な医療を提供し、信頼される病院を目指します。

●病院概要

病床数/精神科148床、精神科救急病床110床
職員数/210名(看護師数 149名)

●診療科/精神科、児童精神科、歯科(入院患者のみ)

●看護体制

【看護単位】精神科病棟3看護単位

(児童思春期ユニットを含む)

精神科救急病棟2看護単位

外来(児童思春期外来含む)1看護単位

●勤務体制 3交替・早番・遅番

【看護配置】精神科病棟 15:1

児童思春期病棟 10:1

精神科救急病棟 10:1

看護補助加算 30:1

【看護提供方式】グループプライマリナーシング

東北唯一のがん専門病院として、高度かつ先進的ながん医療の実践



Miyagi Cancer Center

宮城県立がんセンター

基本理念 患者さんの視点に立ち、良質かつ先進的医療を提供し、がん専門病院としての使命を果たします。

●病院概要

病床数/一般病床358床、緩和ケア病棟25床

職員数: 515名(看護師数 312名)

●診療科/血液内科、腫瘍内科、呼吸器内科・外科

頭頸部内科・外科、消化器内科・外科、

緩和ケア内科、婦人科、泌尿器科など 全26診療科

●看護体制

【看護単位】一般病棟・HCU8看護単位

緩和ケア病棟1看護単位

外来2看護単位/手術室1看護単位

●勤務体制 3交替・早番・遅番

【看護配置】一般病棟 7:1

緩和ケア病棟 7:1

急性期看護補助加算 50:1

【看護提供方式】グループプライマリナーシング

宮城県立精神医療センター

可能性を信じて共にあゆみ続ける看護

当院は、精神科の基幹病院として、宮城県の精神医療の中心的な役割を担っています。精神科救急24時間の受け入れ体制、児童精神科、訪問看護ステーションの運営等、社会のニーズに応じた新たな取組みも積極的に進めております。

当院では、「Smile(笑顔で)、Support(支援)、Spirits(心を込めて)」をモットーに、心の通う精神医療の実現を目指しています。私達看護師は、病状で隠れている患者さんの本来の姿「その人の性格や強み」、「その人が大切にしていること」などに目を向け、その人が「こうありたい!」と思う姿を目指して、心を込めて支援しています。そのために、通院や入院時だけでなく、地域における日常生活のあらゆる困り事や苦しさに対し、その人の可能性を信じ共にあゆみを進めることを大切にしています。

●看護部理念

看護倫理を基盤に、精神科看護の質の向上を図るように努める。また、看護のさまざまな「おこない」とおし、患者さんおよびそのご家族のよりよい環境作りに努めるとともに、社会の動向に沿った継続性のある良質な看護活動を展開する。

●看護部方針

1. 患者さん・ご家族一人ひとりの「そのひとらしさ」を大切に、看護を提供する
2. 患者さん・ご家族の個々の生活能力を高め、早期退院に向けた積極的な支援に努める
3. 専門的知識に基づき安全・安楽を考慮し医療事故防止に努める
4. 医療チームの一員として看護の専門性を発揮し、効率的な看護を提供する
5. 精神科看護としての専門性を高める
6. 健全な病院経営に参画する



看護部長 大場 美沙

精神科看護は心が感じることから始まる

「精神疾患を持つ人に関わりたい!」そう思ったのは、看護学生3年次の実習で出会った患者さんが発した言葉を聞いた時でした。病棟のデイルームで将棋をさしながら「退院先が決まらない」と悲し気に話す様子が強く心に響きました。病気が落ち着き、このように穏やかに日常を送れる状態にあっても精神疾患を持つことで、退院できないこともあるという事実を知ったのです。私の中で、患者さんの描く生活を営むことができるようにサポートしたいという気持ちが、湧きあがった瞬間でした。

現在、当センターの看護師は、患者さんと真摯に向き合い、思いに寄り添い、対話を続けるという精神科看護の基本を大事にしながら、退院支援、地域定着推進に力を注いでいます。さらに、患者さん、ご家族、看護スタッフや多職種チームと語り合い、力を合わせて、患者さんの希望や可能性を探り、患者さんが求める生活や生き方に近づくようにサポートしています。まさにチーム医療の醍醐味が味わえる実践が展開されています。

当センターは、職員がチームのひとりであることに誇りとやりがいを感じながら活動できる場所です。私達と一緒に、患者さん、ご家族、地域の支援者と、共にあゆみ続ける看護を目指しませんか。皆さまと一緒に看護ができる日を心からお待ちしております。

宮城県立精神医療センターでの看護のやりがい

患者さんに寄り添い安心感を与えることが出来るような看護の提供を目指したい

入職した当初は、疾患によって引き起こされている幻覚や妄想に対してどのような言葉かけや関わり方が適切なのか難しく感じ、悩むことが多かったです。同じ疾患名であってもそれぞれの方が生活してきた背景などによって全く違う捉え方や考え方を持っており、患者さんへの看護にも個性がとて大切となってきます。自分一人の力では限界があるため、他職種の方々や先輩看護師と相談しながら、患者さんが安心して生活を送ることが出来るように日々取り組んでいます。慢性期病棟では、長期にわたって入院している方が多く、時間をかけて患者さんに関わることが出来ます。退院に向けての動きはゆっくりかもしれませんが、自分の関わりの中で少しの変化が現れた時には、嬉しさとやりがいを感じます。

私は、疾患により患者さんが抱えている生活しづらさを少しでも軽減することが出来るよう、患者さんに寄り添いそれぞれに合わせた看護をこれからも心掛けていきたいと思えます。



廣長 瑠奈 (3年目看護師)

根気強く丁寧に患者さんに関わり続ける



白石 愛 (7年目看護師)

入職して5年が経ち、これまで様々な患者さんと出会ってきました。急性期病棟では、医療保護入院や措置入院といった患者さん本人が希望をしない入院がほとんどであり、病状により入院の必要性の理解も難しいため、医療に対し不信感を持っている場合が多いです。傷つく言葉を投げかけられたり、興奮状態にある患者さんを目の当たりにして、どのように関わっていけばいいのだろうかとか日々悩みながら、医療チームでカンファレンスを重ね、その患者さんに合った看護を考えています。なかなか上手くいかないこともありますが、根気強く丁寧に寄り続けることで心を開いてくれる患者さんも多く、次第に私たちの言葉も受け入れ、退院時に笑顔で「ありがとう」と言い帰っていく姿をみることが出来る場合があります。そのような時にはやりがいと嬉しさがこみ上げてきます。自分の関わりが直接患者さんに影響していくため、難しさは感じますが、向き合ったその時間が、看護師として、また人としても成長できるものとなります。

患者さんの「その人らしさ」を大事にし、理想や希望の実現に向けて支援する

「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)」を知っていますか?精神科医療界にとどまらず、様々な分野で注目されてきているプログラムです。私はCVPPPインストラクターという資格を得て、当院のみならず他施設への普及を行っています。CVPPPは、精神科医療現場等で起こる患者さんの暴力を防止するプログラムですが、決して暴力を物理的な力で抑え込むプログラムではありません。患者さんが抱える不安や恐怖、怒り、悲しみ、苦しみなどの感情を暴力という形で表現しないように安心できる環境づくりや我々看護師を含め、様々な方と安心した信頼関係を構築することが目的です。そのため患者さんの「その人らしさ」を大事にし、理想や希望の実現に向けて支援をしています。

私が大事にしている言葉に「その人をよく知れば、その人を傷つけようとは思わない」というものがあります。患者さんからそう思ってもらえるように日々看護に励んでいます。そして、入院という不便な生活を送りながらも笑顔で話しかけてくれる患者さんとの日々の対話が、私の「看護のやりがい」となっています。



中鉢 亘 (副看護部長)

精神医療センターの教育体制

新人看護師の年間スケジュール

精神医療センター

基礎看護

精神看護



看護部の教育目標

教育目標

1. 看護師として必要な基礎的な知識・技術を習得し、看護実践能力を高める
2. 精神科看護の専門性を高める

教育プログラム4つの柱

- ・ニーズをとらえる力
- ・協働する力
- ・ケアする力
- ・意思決定を支える力

プリセプター制度

プリセプター制度とは

新人看護師(プリセプティ)には、心理的サポートや技術指導を行う先輩看護師(プリセプター)が付き、一年を通してマンツーマンでフォローします。



プリセプティ 上平 芽生(左) / プリセプター 高橋 亜紀(右)

新人看護師(プリセプティ)

新人看護師(プリセプティ)東1病棟 上平 芽生
 入職当初はとにかく不安だけで、仕事をはやく覚えて迷惑をかけたくないという思いが大きかったです。その分落ち込むことも多々ありましたが、患者さんの笑顔が見られた時や感謝の言葉をもらった時に患者さんのためにもっと頑張ろうと思えました。また、プリセプターは仕事の事に加えて精神面も気にかけて下さり、私生活の事も安心して話せます。温かく支えて下さる本当に心強い存在です。まだまだ仕事は不慣れで不安もありますが、これから先輩方に指導・助言を頂きながら努力していきたいです。

先輩看護師(プリセプター)

先輩看護師(プリセプター)東1病棟 高橋 亜紀
 プリセプティは不安と緊張の中で勤務しています。そのため「報告・連絡・相談」しやすい雰囲気を作っています。勤務が一緒の時、患者さんのケアや処置があれば声を掛けています。病棟スタッフにも協力を得られるよう共有ノートを作り、全体で育てることを意識しています。定期的上司と振り返りを行い、サポートできるように相談しています。
 経験が少ない中でもプリセプティが患者さんと積極的に、丁寧に向き合い、コミュニケーションを図っている姿を見ると日々の成長を感じ、嬉しく思います。

クリニカルラダー

段階的なプログラムで着実に実践能力を高められます



基礎看護だけでなく、専門看護も一緒に学べる環境です!



10年目~

より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
 看護研究、多職種協働による地域移行支援の実践 など

5~9年目

幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する
 リカバリー・ストレングスモデル、認知行動療法、ファシリテート など

3~4年目

ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する
 リーダーシップ、多職種連携、訪問看護、看護研究、精神科看護 など

2年目

標準的な看護計画に基づき、必要に応じ指導・助言を受け看護を実践する
 看護倫理、精神疾患の治療と看護、緊急時の看護、フィジカルアセスメント など

1年目

基本的な看護手順に従い指導・助言を得て看護実践できる
 基礎看護技術(※新人看護師の年間スケジュール参照)



宮城県立がんセンター

ここだからできるがん看護がある

当センターは、東北唯一のがん専門病院であり、都道府県がん診療連携拠点病院としてがんの高度先進医療の提供を行うと同時に、緩和ケアや研究を含めた「がん征圧の拠点」としての役割を担っています。2人に1人ががんになる時代、私達看護部は、患者さんにとって最善となるがん医療を提供し、患者さんががんとよりよく共生できるよう、がん看護に携わるプロフェッショナルとして自覚と責任を持ち看護に取り組んでいます。

今、社会の変化や個人の価値観の多様化などを背景に、看護師が果たす役割は拡大しています。その中において、私達看護部は、エビデンスに基づく質の高い看護ケアを提供し、患者さんご家族に対し「温かい」看護を実践することを大切にしています。

患者さん一人ひとりに寄り添い看護を提供する、「ここだからこそできるがん看護」を行い、「このセンターに来て良かった」と感じていただける看護部でありたいと思っています。

●看護部理念

人々の生命及び人権を尊重し、温かく信頼感に基づいた質の高いがん看護を提供します。

●看護部方針

1. 患者さんのニーズを的確に捉え、安心感、満足感とともに信頼される看護に努めます
2. 専門職業人として主体的に学び、人間的成長とがん看護の実践能力の向上を目指します
3. 医療チームの一員としての役割と責任を果たし、地域及び多職種との連携を深めます
4. 業務改善を推進するとともに経済効率の向上を目指します



看護部長 佐藤 千賀

がん患者さんの自分らしい生活を支える看護は、その人の人生を支える看護です

がん患者さんやご家族は、様々な思いを抱き、その都度自分に折り合いをつけながら療養生活を送っています。がん治療の選択、その効果や副作用等、がん向き合いながら毎日の生活を送り不安を抱えている方は少なくありません。

がん看護に大切なことは、患者さんにとって常に最善、最適な治療が受けられる環境を提供すること。そして何より、患者さんが希望を持ち、自分らしい生活を送ることができるように支援することです。がん治療の経過の中では、副作用症状や機能障害が社会生活に支障をきたしたり、がんに伴う苦痛症状がその人らしさを奪ってしまうことがあります。

エビデンスを持った判断で患者さん一人ひとりに向き合い、温かい姿勢で看護を提供する。それは、今を生きるがん患者さんの人生を支える貴重な時間になります。そして、この看護体験が他者を慈しめる看護師としての自分の成長、看護のやりがいにつながっていくと思います。

がん看護は専門性が高いと思われていますが、院内教育では専門・認定看護師を講師としたラダー研修を充実させていますので心配はいりませんよ。温かいがん看護の提供を目指す皆さんをお待ちしています。

宮城県立がんセンターでの看護のやりがい

信頼関係を構築し、患者さんの本来の姿、想いを尊重する

転移性多発脳腫瘍のため抗癌剤治療をしていた50歳のAさんの退院先の検討をする際、「子育てや両親の介護で自分の時間を持てなかったため、今後は一人暮らしをしたい」という想いを知りました。左下肢不全麻痺があり一人での生活は困難と考えられましたが、Aさんの想いを叶えたいと思いました。

私は、移動手段の工夫や居住環境をイメージして段差を考慮した固定式歩行器や杖を使用したりハビリを提案し、退院までに数段の階段昇降ができるようになりました。また、Aさんご家族と何度も相談しながら退院後の居住環境の調整を行いました。最初は不安な気持ちを出していたAさんですが、リハビリや居住環境を整えたことで、笑顔で退院されました。

日頃からコミュニケーションを図り信頼関係の構築ができたことで、本来の姿を見せてくれるようになり、Aさんの想いを尊重した退院支援ができたのだと思います。これからも希望を叶えられるよう患者さんの想いを尊重し、支援をしていきたいと思っています。



星 菜奈 (6年目看護師)

患者さんと向き合い対話すること、「気持ち」に寄り添うことを大切にしたい



穴戸 沙織 (8年目看護師)

下咽頭癌切除術のため永久気管孔を造設することになったBさんは、術前「不安だ」といつも訴えていました。私はBさんが感じている不安を確認するため、ゆっくり話をすると、Bさんは術後の自分の姿が想像できないことに対し不安を感じていることが分かりました。術後どのように体の機能が変化するか、その変化に対応するために何をしたらいいか繰り返し説明を行い、少しでも不安がなくなるよう努めました。

術後は、Bさんのライフスタイルを考慮して退院準備を進めました。Bさんが退院した後の自分の姿が想像できるように、不安なことがないか話し合い、解決策をBさんと共に考えていきました。ひとつひとつ不安を解決し、退院後の自分の姿が想像できるようになったBさんにも少しずつ笑顔が見られるようになりました。退院のとき「たくさん不安なことがあったけど、話を聞いてくれたから手術を受けることができました。声は失ったけど、苦しいのが取れて退院できてよかったです」ととびっきりの笑顔で退院されたのは今でも忘れられません。

どのような場面であっても、患者さんは今何を考えどのような気持ちでいるのか意識して患者さんの話を聞くようにしています。これからも、患者さんと向き合い対話することで患者さんに必要な看護を提供できるよう励んでいきたいと思っています。

感情の変化を見逃さない、がん専門病院の看護師としての視点でコミュニケーションを図ることを大切に

がん患者さんとご家族は、がんと診断されてから病状、治療など様々な事に不安や恐怖といった感情を抱かれています。感情の表出に個人差はありますが、そういった感情の変化を見逃さないようにすることを常日頃心掛けています。コミュニケーションは患者さんやご家族の不安を和らげるだけでなく、思いを共有することで的確な情報提供、治療に対するコンプライアンスの維持向上にも繋げることが出来ます。

手術療法目的で入院された高齢患者さんの話です。手術療法の説明中、終始うつむいており、ご家族はその様子を心配そうにみていました。患者さん、ご家族の思いを聞くと患者さんの本心は手術をしたくない、ご家族も治療はしてほしいけど無理はしてほしくないという思いでした。その思いをふまえ、治療方針が再度示され、患者さんは放射線療法を選択しました。

後日外来でお会いすると「あの時も一度考え直す機会をもらえてほんとによかったです。傷もないから余計に元気です。」と話してくださいました。

コミュニケーションを通して、がん患者さんがその人らしく生きること、最善の選択が出来る支援をすることが私たちの務めであり、がん看護のやりがいと強く感じています。



鈴木 祐太 (17年目看護師)

がんセンターの教育体制

新人看護師の年間スケジュール

がんセンター

基礎看護

がん看護



看護部の教育目的・目標

教育目的

看護部理念に基づいた、がん看護を誇れる看護師像を目指して職業人として資質の向上と主体的・意欲的に行動できる能力を養う。

求める看護師像

相手の立場に立って、物事を捉え、考え行動することができる
患者さん・ご家族のアドボケーターになることができる
柔軟な思考で豊かに学び成長できる

教育目標

1. 看護師一人ひとりの能力を引き出し、主体的に看護を実践し責任が取れる看護師を育てる
2. 現代の医療や看護の進歩、医療の高度化、社会の変化に応じた看護ができるよう支援する
3. 看護専門職として資質の向上を図るために自己研鑽して人間的成長ができることを支援する
4. 実践した看護を倫理的に思考し、看護の科学性を追求する態度を養う

プリセプター制度

プリセプター制度とは



プリセプティ 岡部 真子(左) / プリセプター 高島 いずみ(右)

新人看護師(プリセプティ)には、心理的サポートや技術指導を行う先輩看護師(プリセプター)が付き、一年を通してマンツーマンでフォローします。

新人看護師(プリセプティ)

— 入職当初と今 —

入職当初、職場の環境に慣れる事や初めて経験すること、患者さんとのコミュニケーションなど技術や知識をとにかく覚える事で必死でした。プリセプターは、学生の時に病院実習があまりできなかった私に、物品の場所から患者ケアなど一緒に実施してくれ、経験できるようにしてくれました。プリセプターと一緒に勤務でない時には、私のサポートしてくれる先輩看護師に私のできること、経験していないので教えてほしいことなどを伝えておいてくれました。私がプリセプター以外の先輩方とも多く関わる機会を作ってくれました。今では、他の先輩と患者さんのことを相談でき、処置やケアも一人ですることが多くなりました。

入職してまもなく1年になります。私は、少しでも患者さんの思いに寄り添えるように患者さんとのコミュニケーションを大切にしたいと考えます。一般性をふまえて個別的な看護がきちんと患者さんに届き頼ってもらえる看護師を目指して成長していきたいと思っています。

プリセプティからのメッセージ 岡部 真子

クリニカルラダー

キャリアナースは入職時評価でレベルを決定します。



同期と一緒に、分からないことは確認し合いながら研修を行います!



1年目

2年目

3~4年目

5~9年目

10年目~

複雑な問題を総合的に判断し、多職種と協働し患者のQOLを高める看護が実践できる
看護管理の基礎、がん患者の症状マネジメントと看護 など

看護の専門性を高め、予測的判断をもち多職種と協働し看護実践できる(看護モデル)
医療チームとの協働、がん治療と看護(代替・補完療法) など

チームと連携し、個別的な看護が実践できる
リーダーシップ・コーチング、看護倫理、緩和ケア、チーム医療 など

チームメンバーの一員として自立した看護が実践できる
看護技術(専門的処置)、救急時の看護、がん治療と看護(応用) など

助言を受けながら、基本的な看護手順に従い、安心・安楽な看護が実践できる
基礎看護技術(※新人看護師の年間スケジュール参照)



レベル1認定証書授与

1年間の目標の評価・まとめ、レベル1申請準備

看護師としての キャリアを支える継続教育

プロフェッショナルとして信頼される看護師の育成を目指します

当機構では、“質の高い看護を提供し、プロフェッショナルとして信頼される看護師”の育成を目指し、各病院の専門性を重視した教育体制があります。また、2病院看護師が交流する「2病院合同研修」を開催しております。さらに職員のキャリア開発を支援する充実したサポート体制を整えております。

2病院合同研修

新規採用職員研修

初年度

- 社会人基礎力
- 基礎看護技術
- 医療安全

副主任看護師研修

7～15年目

- 問題解決能力
- リーダーシップの発揮

主任看護師研修

主任看護師

- 目標管理
- 人間関係論
- ナラティブ

看護管理研修Ⅰ

副看護師長

- 看護管理の基本
- 看護マネジメントの理解

看護管理研修Ⅱ

看護師長

- 看護管理能力の向上
- 病院経営参画の能力

自己啓発をサポート

◆自己啓発休業

長期間大学等への通学や国際貢献活動をしたい場合に、その期間を「進学」は2年まで、「国際貢献活動」は3年まで休業することができます。

◆修学部分休業

働きながら大学等に通学したい場合に、勤務時間の一部を2年まで休業することができます。

◆外部研修等への派遣

専門・認定看護師、看護管理者、その他の資格取得や臨床実践に関わる専門研修等に積極的に派遣しています。

資格取得をサポート

◆専門・認定看護師

当機構では、各県立病院で専門性を発揮して活躍できる専門・認定看護師の育成にも力を入れており、資格取得に意欲のある看護師を全面的に支援しています。病院推薦により受講料、滞在費、交通費等を病院機構で負担し、出張扱いで参加できます。

看護の質向上をサポート

◆院内外の研修等へ参加

- ・役割研修
- ・専門領域による院内外研修
- ・看護研究・発表
- ・院外への研修会、講演会、学会への参加・発表

専門・認定看護師

資格取得に意欲がある看護師を支援します！

精神医療センター

感染管理認定看護師
石山 大



感染管理認定看護師として病院内の感染対策に従事しています。病院内では組織を横断しながら全部署とかわりもっています。対外的にも保健所や他病院と打ち合わせや業務調整を担っています。

精神科は鍵のかかった構造が多く、他の科に比べ特殊な環境下にあります。精神科の特殊性を考慮した感染対策も大切ですが、標準予防策を代表とした一般化された対応をきちんと行っていくことが大切と考えています。多様性の時代ですが、基本を大切に、感染対策を進めていきたいと考えています。

がんセンター

がん看護専門看護師
佐々木 理衣



がん患者さんは、がんという病気や将来に対する不安や気がかり、治療の副作用・合併症によって心身に不調をきたします。さらに、就学や就労の調整や他者との関係性などに揺らぎが生じることがあります。ご高齢で治療選択の判断が難しくなった患者さんは、ご家族に代理決定が求められることがあります。ご家族と共に患者さんのこれまでの思考や価値観を振り返り、現在の日常を伺いながら、患者さんにとっての最善を考えることで、ご家族の代理決定に関する負担をケアすることにもつながります。

がん看護専門看護師として、患者さん一人ひとりがよりよい治療選択と社会とつながる療養生活が送れるように全人的な看護の視点で支援を心掛けています。

精神医療センター

精神科認定看護師
足立 健一



精神科病院では、精神保健福祉法の趣旨のもと、安全を確保するために行動の制限を行う場合があります。私は精神科認定看護師の資格を取得後、主に行動制限が最も少なくなるよう患者さんをはじめ、みなさんの協力を得て取り組んでいます。

行動制限最小化はチームとして目標を共有し、継続して取り組むことで実現できると考えています。患者さんに関連のあるすべての人がチームメンバーとして協力し合えるチーム作りを意識し、今後も活動していきたいと考えています。

宮城県立精神医療センターは、一緒に悩んだり喜んだりして成長していける職場だと思います。

がんセンター

乳がん看護認定看護師
船水 まり子



資格取得前から乳がん患者を多く担当していた私は、どうしたら患者さんに寄り添う看護が実践できるのだろうかと思っていました。そんな中で、乳がん看護認定看護師の資格取得を目指してみないかという提案をしていただき、2010年に認定看護師の研修に参加しました。研修では、自分の看護を見つめなおし、客観視できるとも良い機会となりました。実践してきた乳がん看護にどのような意味があったのか、今後どのような看護を行うべきかなど、少しずつですが、自分の言葉で話せるようになってきたからです。

乳がん看護認定看護師として、闘病生活が長期化する乳がん患者の、治療と生活の両方を支えられる看護師をこれからも目指したいと思っています。

専門看護師

(Certified Nurse Specialist)

- がん看護専門看護師 2名
- 感染症看護専門看護師 1名

認定看護師

(Certified Nurse)

- 皮膚・排泄ケア認定看護師 2名
- 緩和ケア認定看護師 3名
- がん化学療法看護認定看護師 2名
- がん性疼痛看護認定看護師 1名

- 乳がん看護認定看護師 2名
- 摂食・嚥下障害看護認定看護師 1名
- がん放射線療法看護認定看護師 1名
- 感染管理認定看護師 2名
- 精神科看護認定看護師 (精神科看護協会認定) 4名

先輩看護師の声を紹介します

福利厚生

充実した教育体制とキャリアビジョンへの支援

東日本大震災では、災害直後にみられる急性ストレス反応や中長期的にみられる適応障害、PTSDに苦しむ患者さんを目の当たりにし、被災者のメンタルヘルスやこころのケアの重要性を感じました。この経験を精神科看護師として自身のキャリアに活かせないかと思い、災害派遣精神医療チーム (DPAT) の研修に参加させていただきました。

研修後はDPAT先遣隊として、実際に熊本地震や丸森豪雨災害など様々な災害で被災者やその支援者のこころのケアを行いました。派遣時には1週間以上職場を離れ、被災地で過ごすこととなるため、職場や家族の協力が欠かせませんが、快く送りだしていただき大変感謝しております。

私が看護を行う上で最も大切にしているのは、患者さん一人ひとりがその人らしく生きることを支えることです。私はがんセンターに入職してから、患者さんに対する熱い思いをもつスタッフとたくさん出会ってきました。皆で患者さんがその人らしくいられるためには自分たちに何ができるだろうと、多職種交えて繰り返しカンファレンスを行うこともあります。その結果、患者さんの望んだ形で地域に戻れた時には大きなやりがいを感じます。

副看護師長として病棟配属となる新人さんには、そのような先輩たちの背中を見て貰い、患者さんに寄り添う看護を実践に繋がられるようなサポートをするようにしています。また、疑問点はすぐに解決できるような環境づくりをしています。私たちと一緒にがん向き合う患者さんの支えとなり、安心を提供できるような看護師を目指しましょう！



精神医療センター

北1病棟 本間 竜太



がんセンター

4東病棟 山口 佳代

看護に専念できる環境

約3年間の育児休業取得後、外来に職場復帰させていただきました。3年間のブランクから仕事と育児の両立や看護師としての感覚を取り戻せるのか不安を感じていましたが、復帰すると、仕事面ではキャリアアップのサポート体制、周囲のスタッフから業務に必要な知識のご指導を受け、不安なく日々の看護に取り組むことができました。

育児面では子の成長に伴うイベントや突然の熱などにも対応できる制度(看護休暇・育児短時間勤務など)があるため、とても助かっています。現在も家族、外来師長・スタッフから温かい励ましやご指導を頂きながら、仕事・育児共に楽しく取り組むことができます。

育児休業取得後、夜勤のない部署へと配慮していただき第一外来に配属となりました。

初めての外来勤務で不安もありましたが、先輩方が常にフォローしてくれ安心して仕事に取り組んでいます。外来は限られた時間の中で状態を把握し迅速な判断、対応が求められます。外来看護の特殊性に難しさを感じながらも、病棟勤務のときに関わっていた患者さんから声をかけられることもあり、やりがいや楽しさも感じながら仕事ができます。復帰した頃は仕事と育児を両立できるか不安でしたが、子どもの体調不良で急遽休むことになったときも、お互いに助け合える環境があるのでとても心強く、支えになっています。

常にサポートしてくれる職場環境と看護師の仕事を理解し応援してくれる家族に感謝しながら母親としても看護師としても成長していけるよう今後も取り組んでいきたいです。



精神医療センター

外来 長谷川 恵美



がんセンター

第一外来 大久保 奈津未

充実した福利厚生や働きやすい勤務環境で
看護師生活を全力でサポートします

●勤務体制

勤務時間

1日7時間45分(週38時間45分)

※三交替制勤務(日勤 8:30~17:15 / 準夜勤 16:30~翌1:15 / 深夜勤 0:30~9:15)
(部署によって早番、遅番勤務があります)

●給与・待遇

初任給

大学卒237,002円 / 短大3卒227,908円 / 短大2卒219,166円

※令和5年4月実績。上記金額には、地域手当を含みます。

諸手当

住居手当、通勤手当、期末・勤勉手当(年間約4.4月分)、夜間勤務手当(準夜1回3,100円、深夜1回3,550円)、夜間看護手当、休日勤務手当、扶養手当、退職手当 等

●休暇・休業制度

年次有給休暇

年間20日(初年度は採用日によって異なります。4月採用の場合は15日)

特別休暇

夏季休暇(5日)、結婚休暇(7日以内)、産前産後休暇(産前8週+産後8週)、忌引休暇、ボランティア休暇 等

育児休業制度

産後休暇後、子どもが3歳になるまで

休業

自己啓発休業、就学部分休業 等

このほかにも、病気休暇やリフレッシュ休暇など、さまざまな場面で活用できる休暇・休業制度を設け、職員の生活をサポートしています。

●福利厚生

共済制度

地方職員共済組合に加入し、医療や年金については、地方公務員と同様の制度で保障や給付を受けることができます。

定期健康診断など

必要な定期健康診断やがん検診を受診でき、必要な予防接種等も無料で受診することができます。

サークル活動

各病院で、職員同士の親睦を深めることができるサークル活動を行っています。

●院内保育ついて

院内保育所

がんセンターの敷地内に院内保育所(つくし保育園)を設置し、365日24時間体制で、仕事と子育ての両立を支援しています。
(精神医療センターの職員も利用できます。)